

會覽博都神祝奉宮遷御

帖真寫念記

會贊協會覽博都神祝奉宮遷御



神德維揚

(總裁題字)

李士





下殿女王子王二并下殿妃全下殿王嘉多宮邇久ノ臨台御



下殿妃全下殿宮松高ノ臨台御

序

御遷宮奉祝ヲ本旨トシ御蔭參ノ大衆ヲ迎ヘテ意義アル接待ヲナスヘク開催シタル當博覽會ハ創始以來朝野各位ノ熱誠ナル贊助ヲ得テ先ツ計畫及設備ニ於テ成功シ次テ宮内省御貸下ノ大禮用度品及賞勳局貸下ノ帝國勳章ヲ奉展セル御物館竝建國三千年ノ光輝アル史跡ヲ展開セル歴史館第一ノ呼物トナリ全國各府縣及植民地ヲ網羅セル國產館、特設館亦好評嘖々ニシテ加フルニ協贊會ノ諸催物相應ノ人氣ヲ引キ殊ニ開館以來打續ク好晴ニ惠マレ日ニ觀覽者殺到シテ幸ニ豫期以上ノ成果ヲ收ムルコトヲ得タリ是實ニ洪大無邊ナル神德ノ賜ニシテ又全國的敬神ノ至念ノ顯現ニ外ナラス豈感激ニ勝ヘンヤ

博覽會記念寫眞帖成ル乃チ此所感ヲ記シテ序文トスト云爾

昭和五年五月

御遷宮奉祝神都博覽會長

宇治山田市長 福地由廉

序

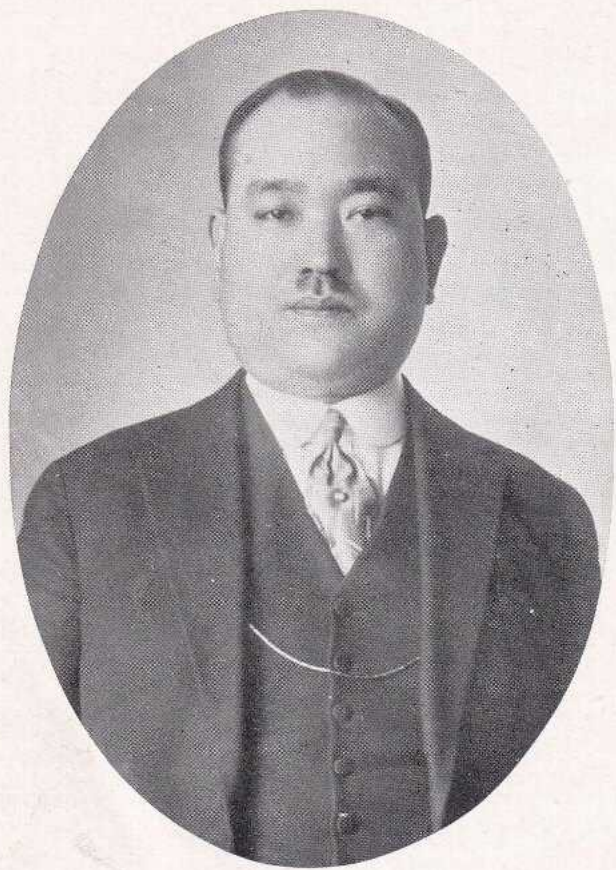
神官式年正遷宮ノ御盛儀ヲ慶祝シ奉リ御蔭參リ
ノ大衆ヲ迎フル爲メ計劃セラレタル御遷宮奉祝
神都博覽會ハ本市空前ノ大事業ニシテ而モ絶大
ナル成功ヲ收メ得タルコトハ最モ意義深キ此ノ
事業翼贊ノ爲メ設立シタル我ガ協贊會ノ誠ニ欣
幸ノ極ミデアル

之レ全ク大神ノ御神護ト江湖各位ノ熱誠ナル御
援助ノ賜ニ外ナラズ唯々感激ノ至ニ堪エズ茲ニ
紀念寫眞帖ヲ編シ各位ノ御高覽ニ供ス幸ニ諒ト
セラレムコトヲ

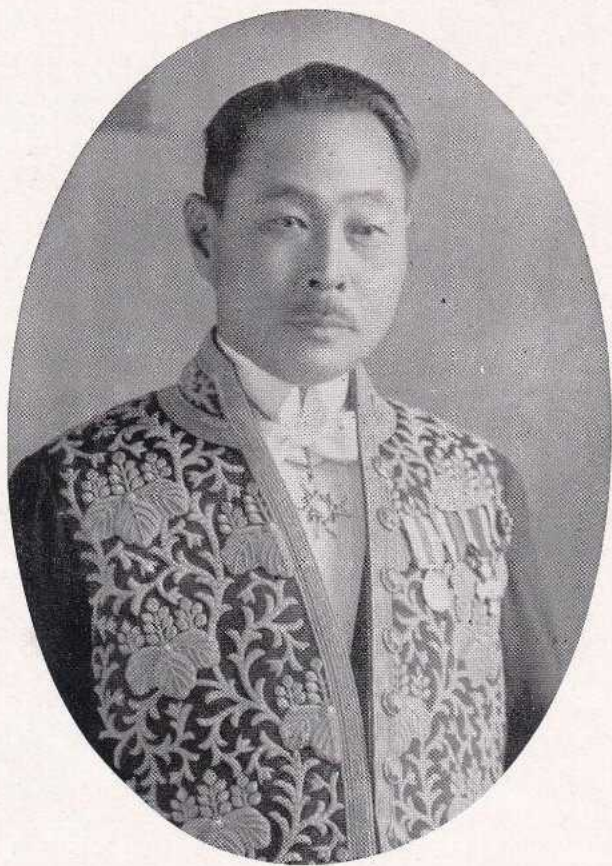
昭和五年五月

御遷宮奉祝神都博覽會協贊會長

宇治山田
商工會議所會頭
西田周吉



博覽會副總裁
三重縣內務部長 石川芳太郎氏



博覽會總裁
三重縣知事 市村慶三閣下



山田工商會議所頭
協贊會々長西田周吉氏



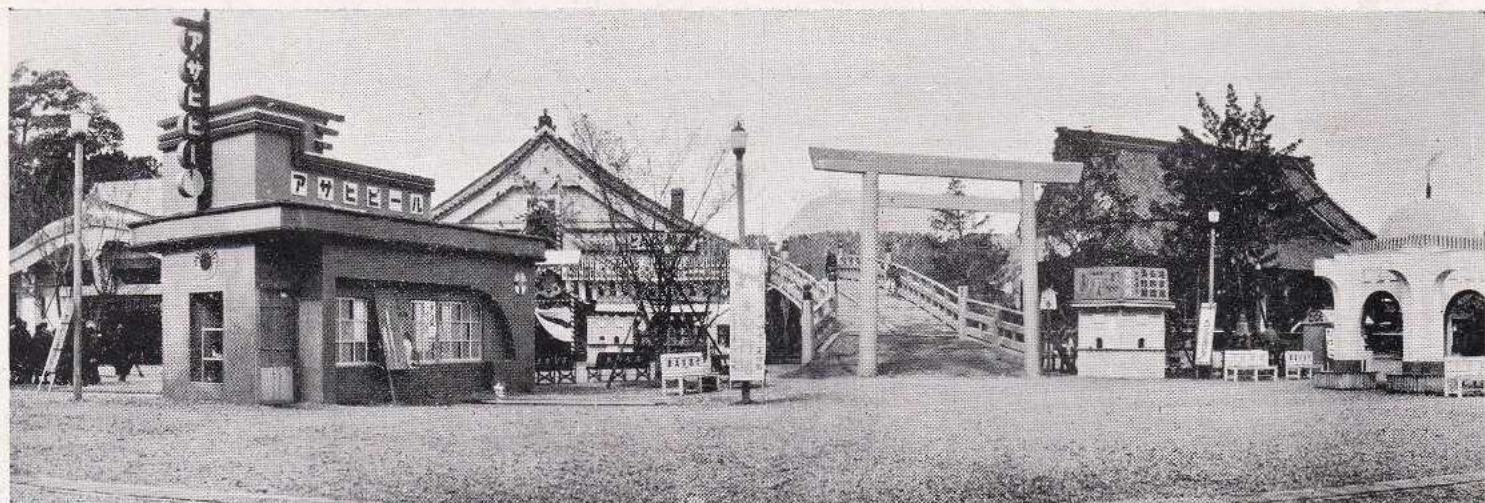
宇治山田市長
博覽會々長
宇治山田市長福地由廉氏



博覽會正門



博 覽 會



景

全



開 會 式



木 館 正 面

右ノ續キ



本館内松坂屋出品
徳川時代ノおかげ詣り



品出社聞新日朝阪大内館本



品出社聞新日每阪大内館本

伏見市出品ノ一部



静岡縣出品ノ一部



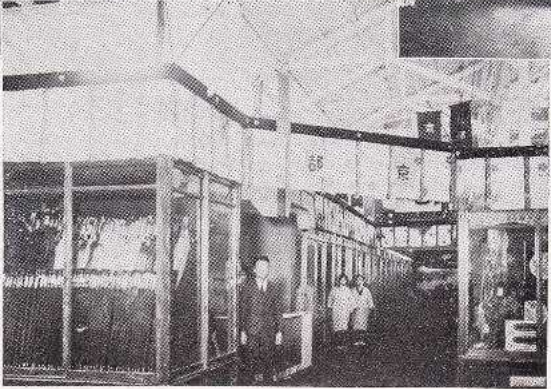
東京市出品ノ一部



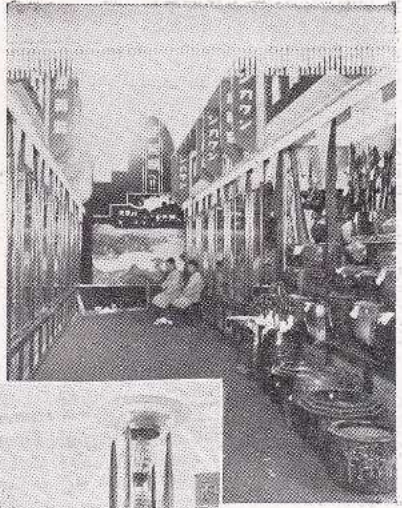
大阪市出品ノ一部



京都府出品ノ一部



滋賀縣出品ノ一部



愛知縣出品ノ一部



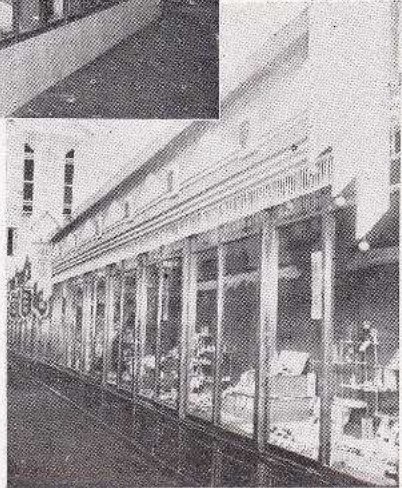
神奈川縣出品ノ一部



岐阜縣出品ノ一部

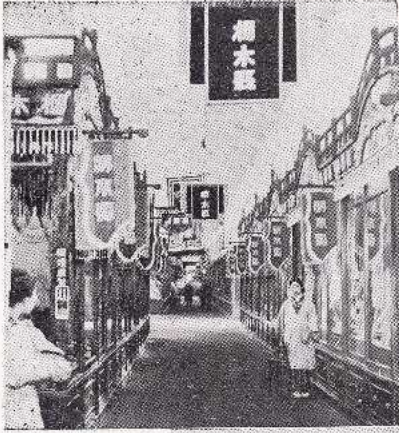


山梨縣出品ノ一部



兵庫縣出品ノ一部

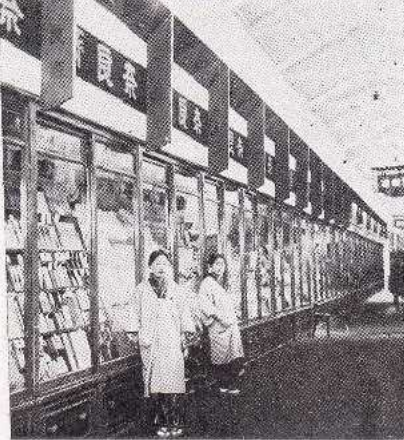
栃木縣出品ノ一部



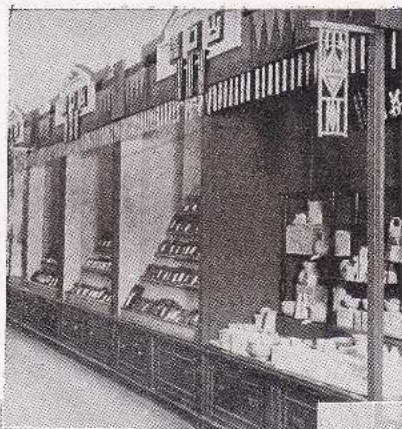
和歌山縣出品ノ一部



大分縣別府市出品ノ一部



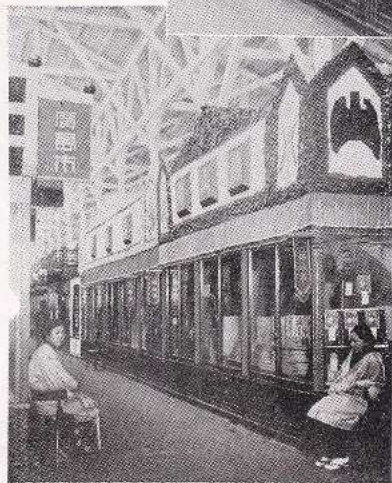
奈良縣出品ノ一部



山口縣出品ノ一部



群馬縣出品ノ一部



廣島市出品ノ一部



埼玉縣出品ノ一部



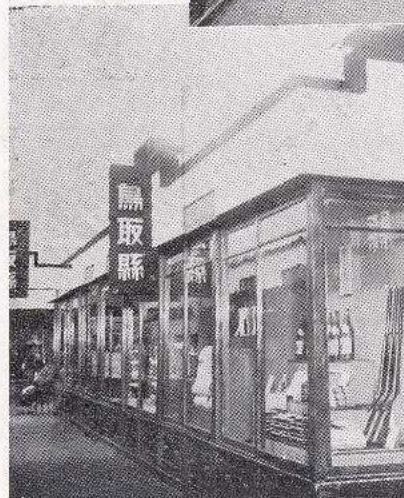
岡山縣出品ノ一部



山形縣米澤市出品之一部



富山縣出品之一部



鳥取縣出品之一部

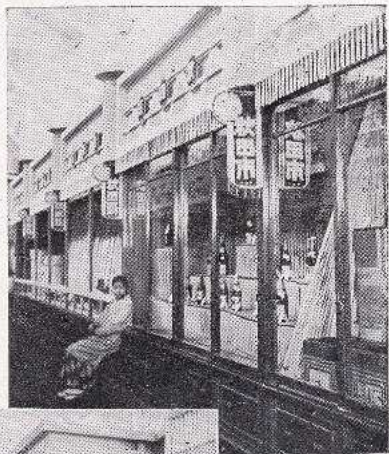


宮城縣出品之一部



石川縣出品之一部

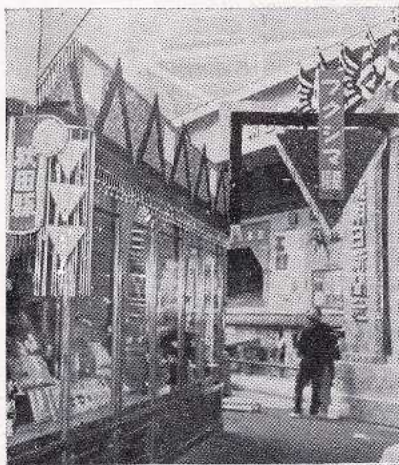
秋田縣出品ノ一部



香川縣出品ノ一部



福島縣出品ノ一部



新潟縣出品ノ一部



青森縣出品ノ一部

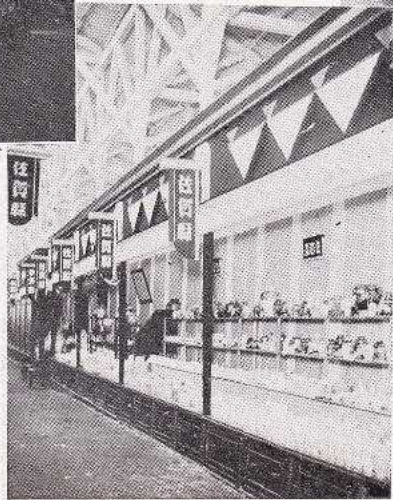




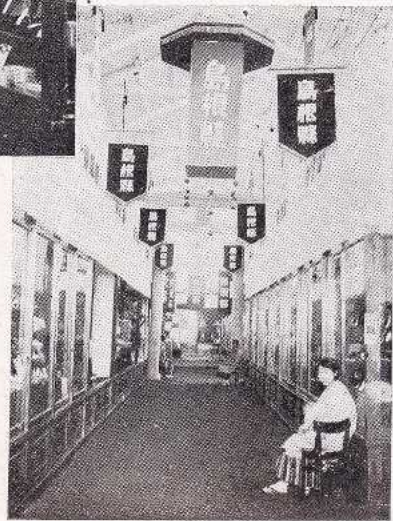
徳島縣出品ノ一部



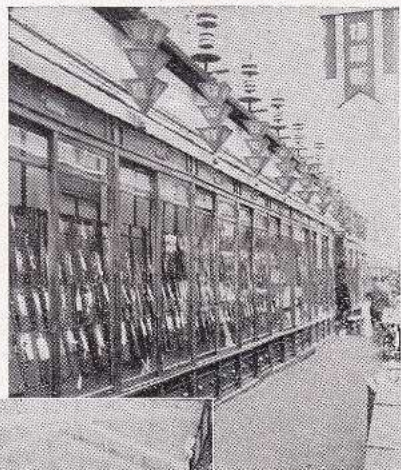
水戸市出品ノ一部
愛媛縣出品ノ一部



佐賀縣出品ノ一部



島根縣出品ノ一部



福岡縣ノ一部



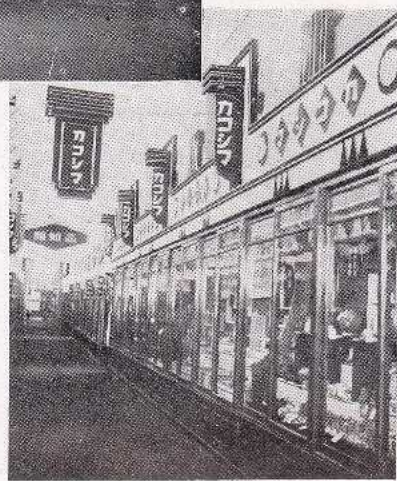
南洋廳出品ノ一部



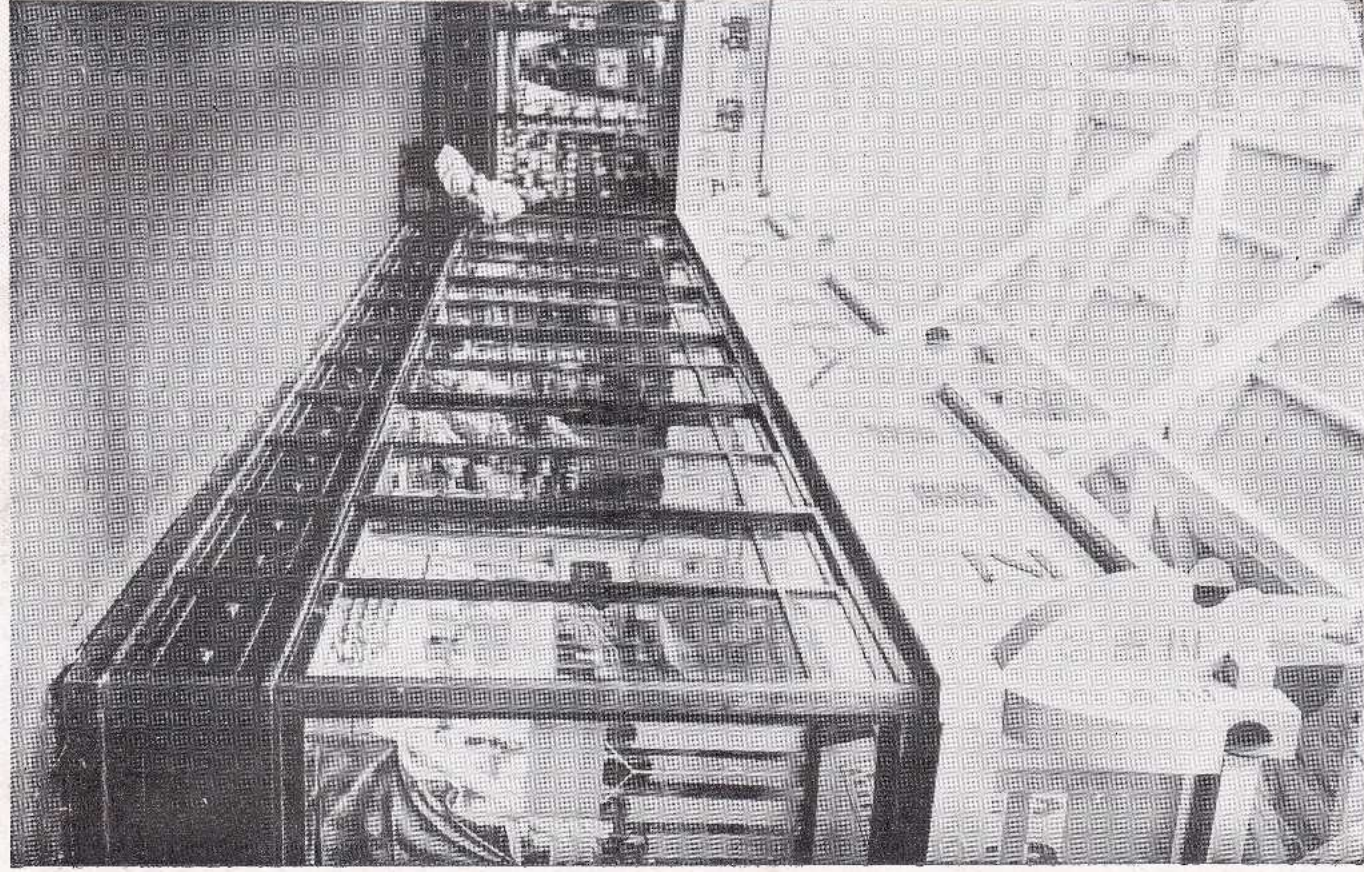
高知縣ノ一部

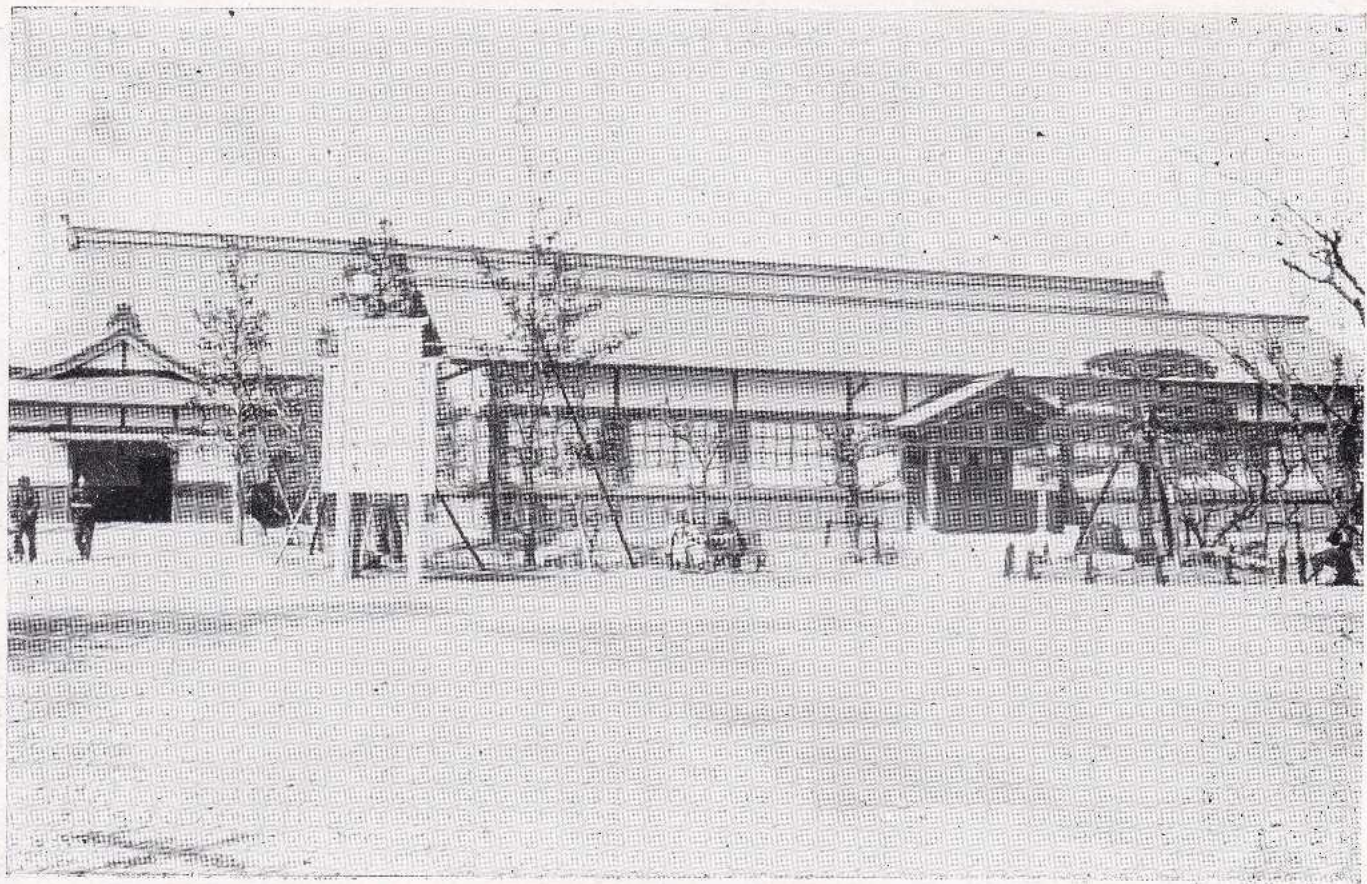


那新市出品ノ一部



鹿児島縣出品ノ一部

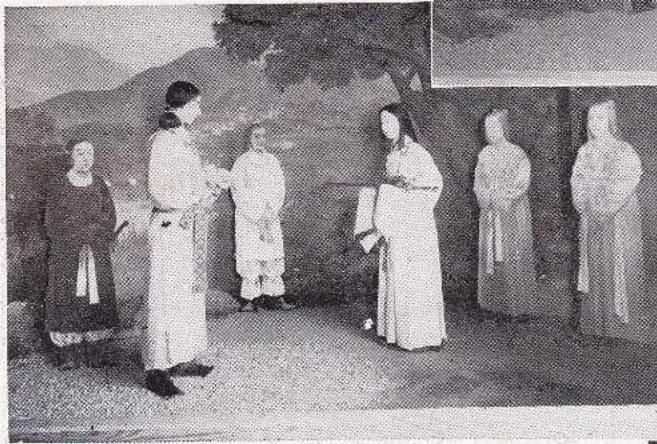




景全館史歴館物御

(歴史館其一)

手力男尊天岩屋戸ヲ開キ給フ



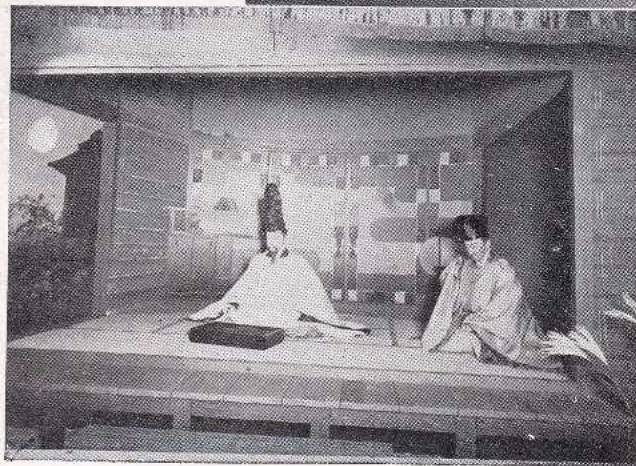
倭姫命實劔ヲ木武尊ニ授ク給フ



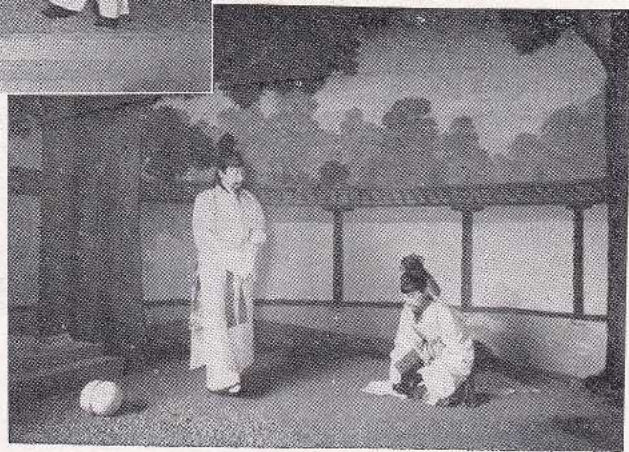
天神武大和ニ入リ給フ

(歴史館其二)

和氣清磨神勅ヲ請ヒ奉ル



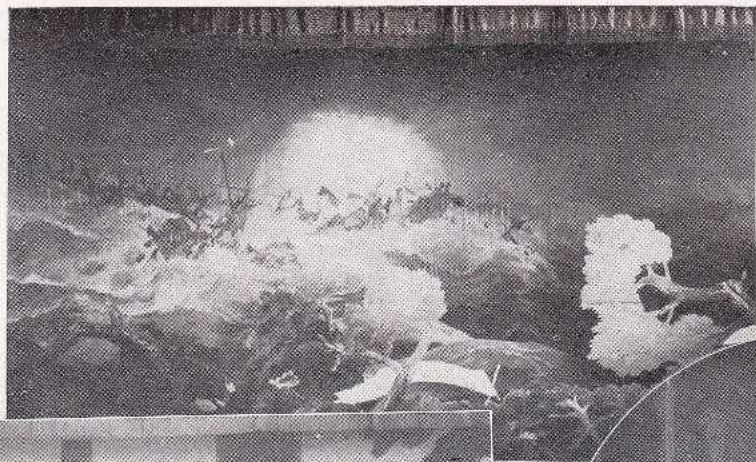
菅原道真ノ賜衣ヲ拜ス



中大兄皇子ト藤原鎌足

(歴史館其参)

一 伊勢ノ神風元冠ヲ
吹キハラフ

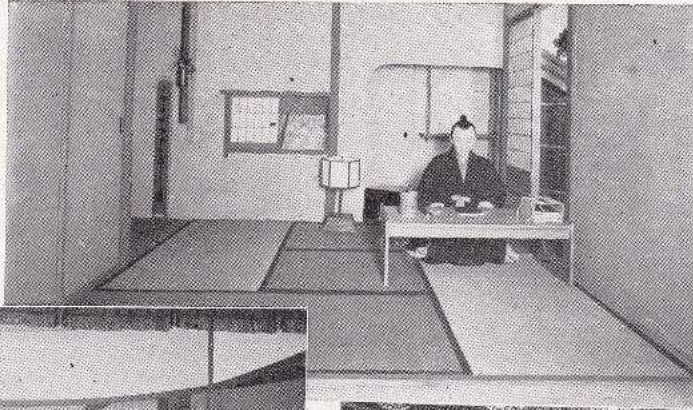


代時年青ノ吉秀臣豊



ス訓教ヲ行正子ノ其人夫公楠

(歴史館其四)



書齋鈴ノ屋ニ於ケル
本居宣長

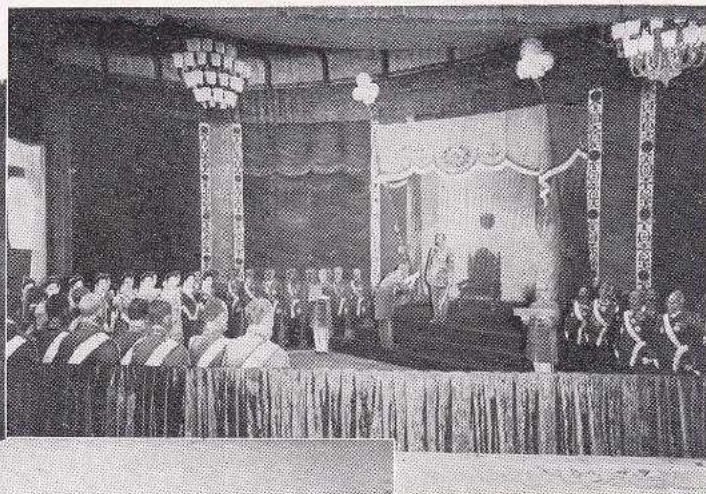
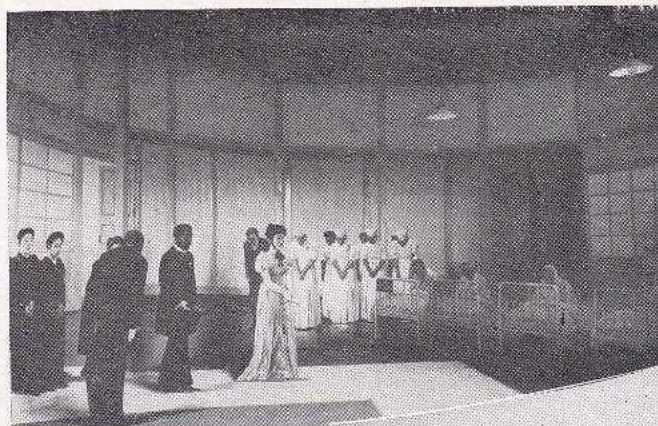
ス復ヲ譬ノ主ノ其士義礎赤



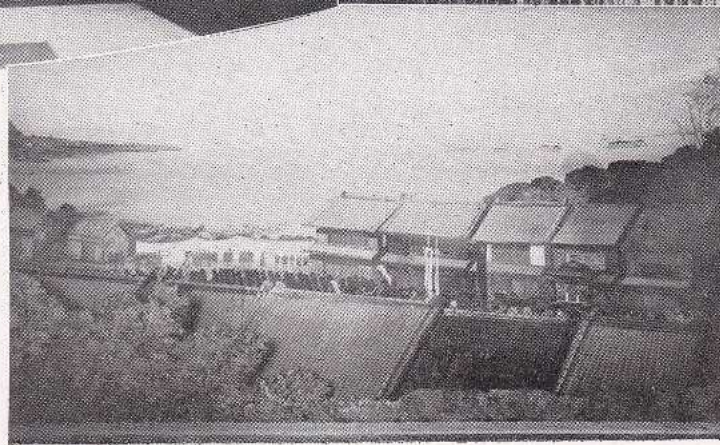
修編史本日大ノ関光川徳



啓行院病社十赤本日ノ后太皇憲昭



明治天皇風箏ヲ東京ニ
進メ給フ



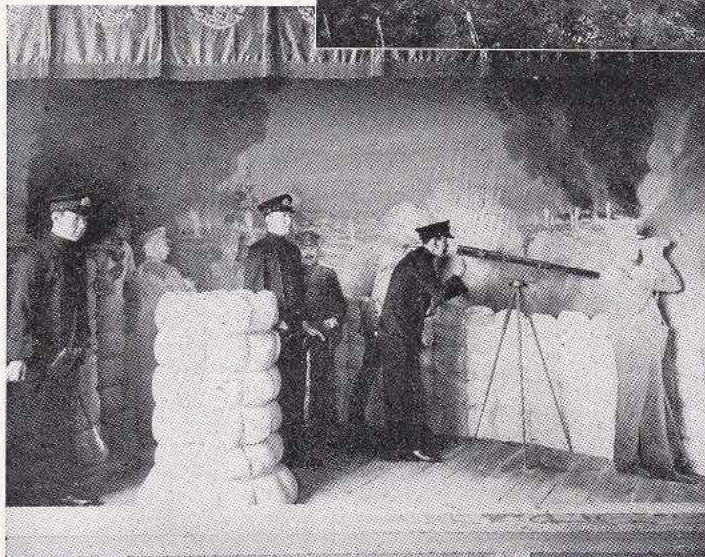
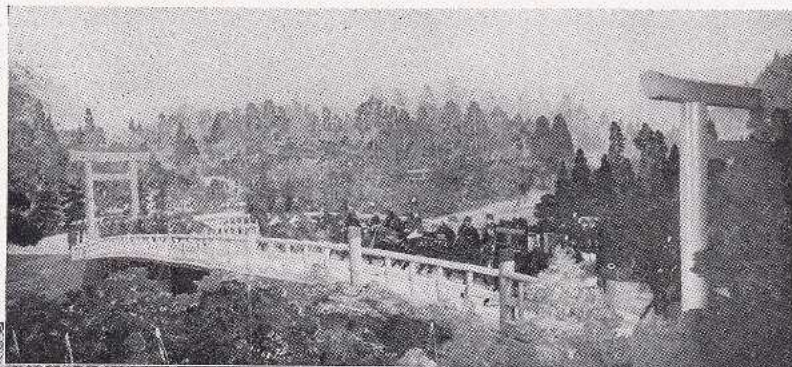
式布發法憲國帝本日大

(歴史館其五)

(歴史館其六)

神宮御親謁兩簿

宇治橋御通過



將大郷東ルケ於ニ上艦



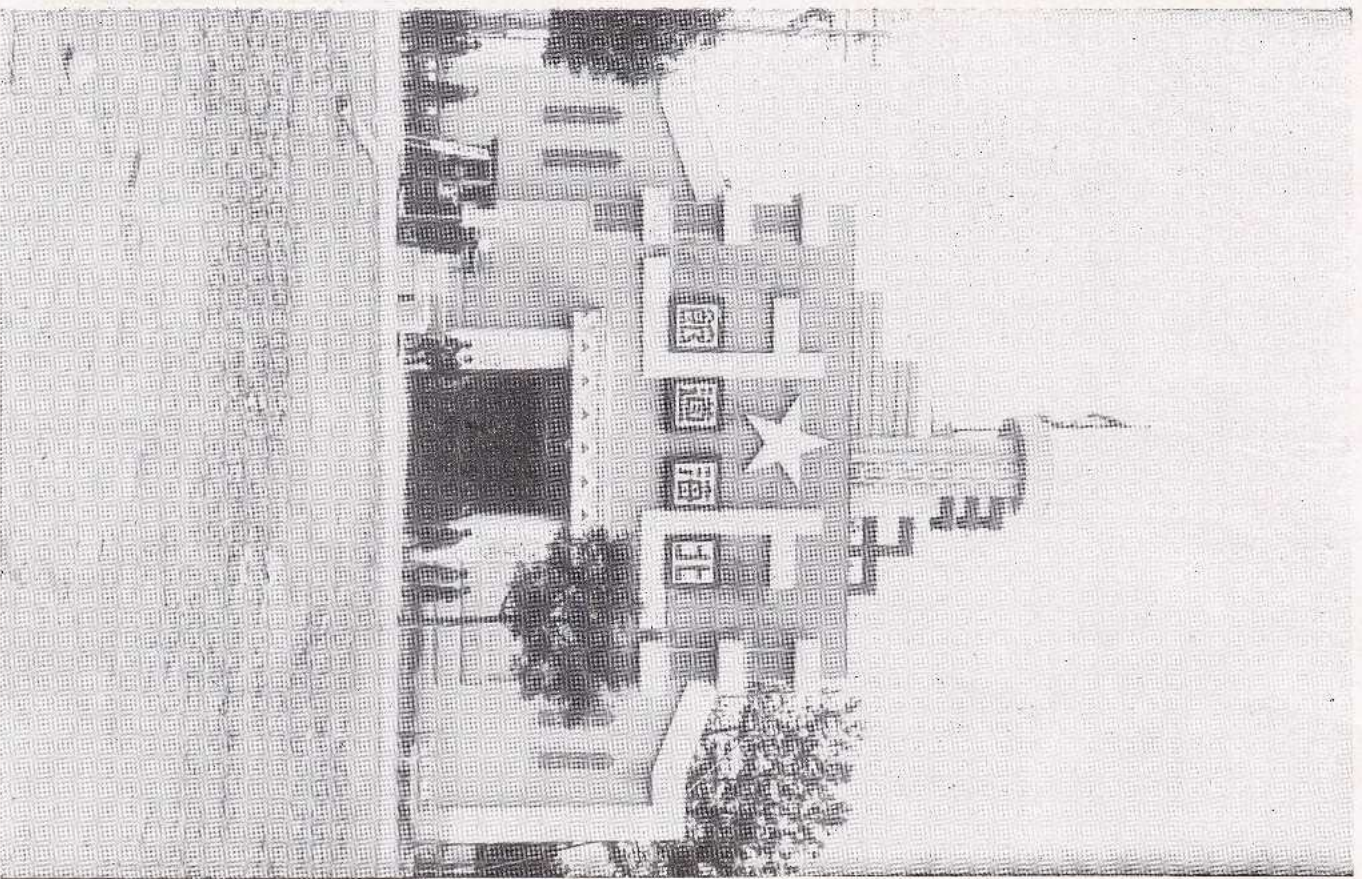
軍將ルセツテス ト將大木乃ルケ於ニ營師水



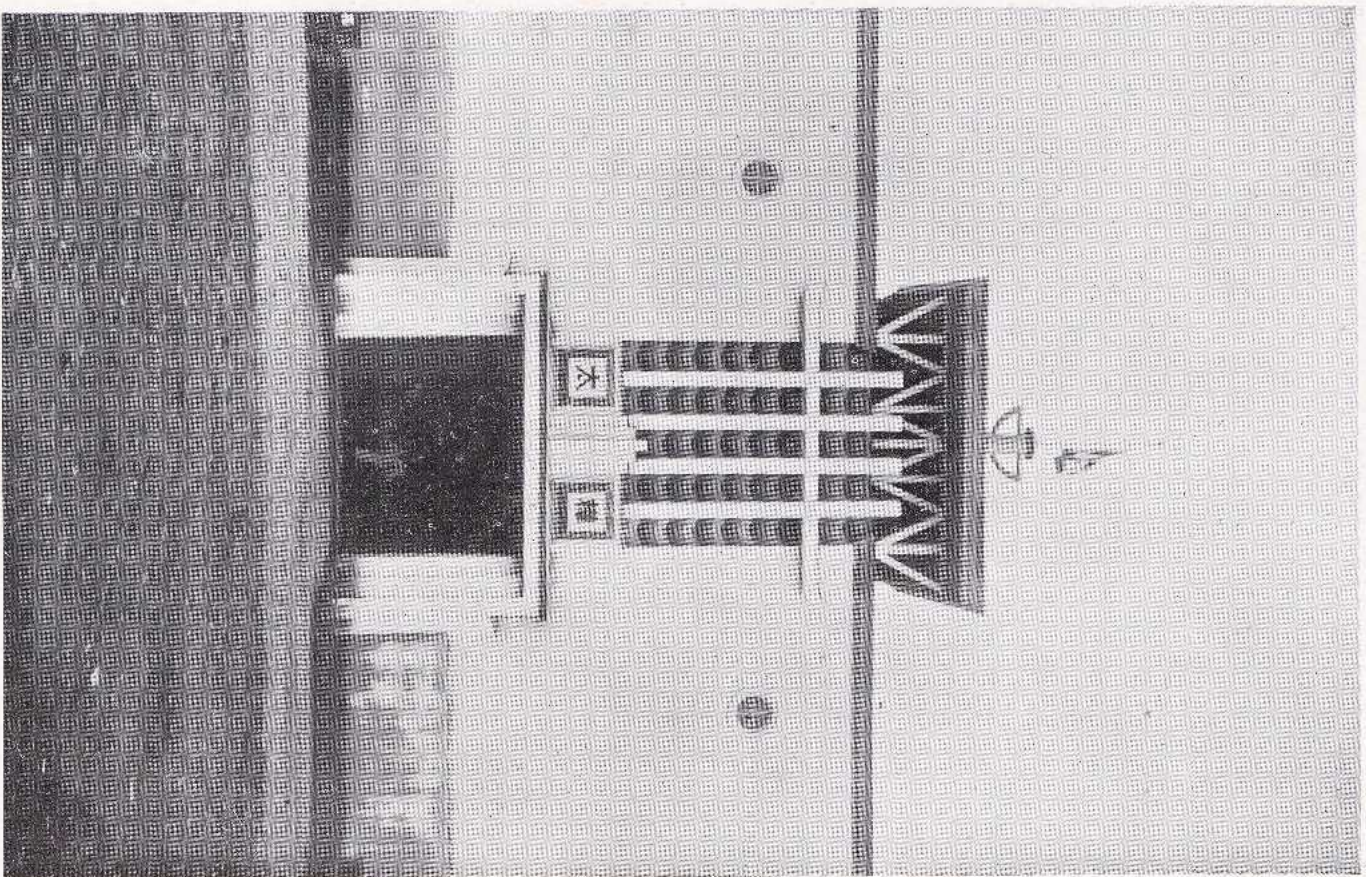
臺灣特設館



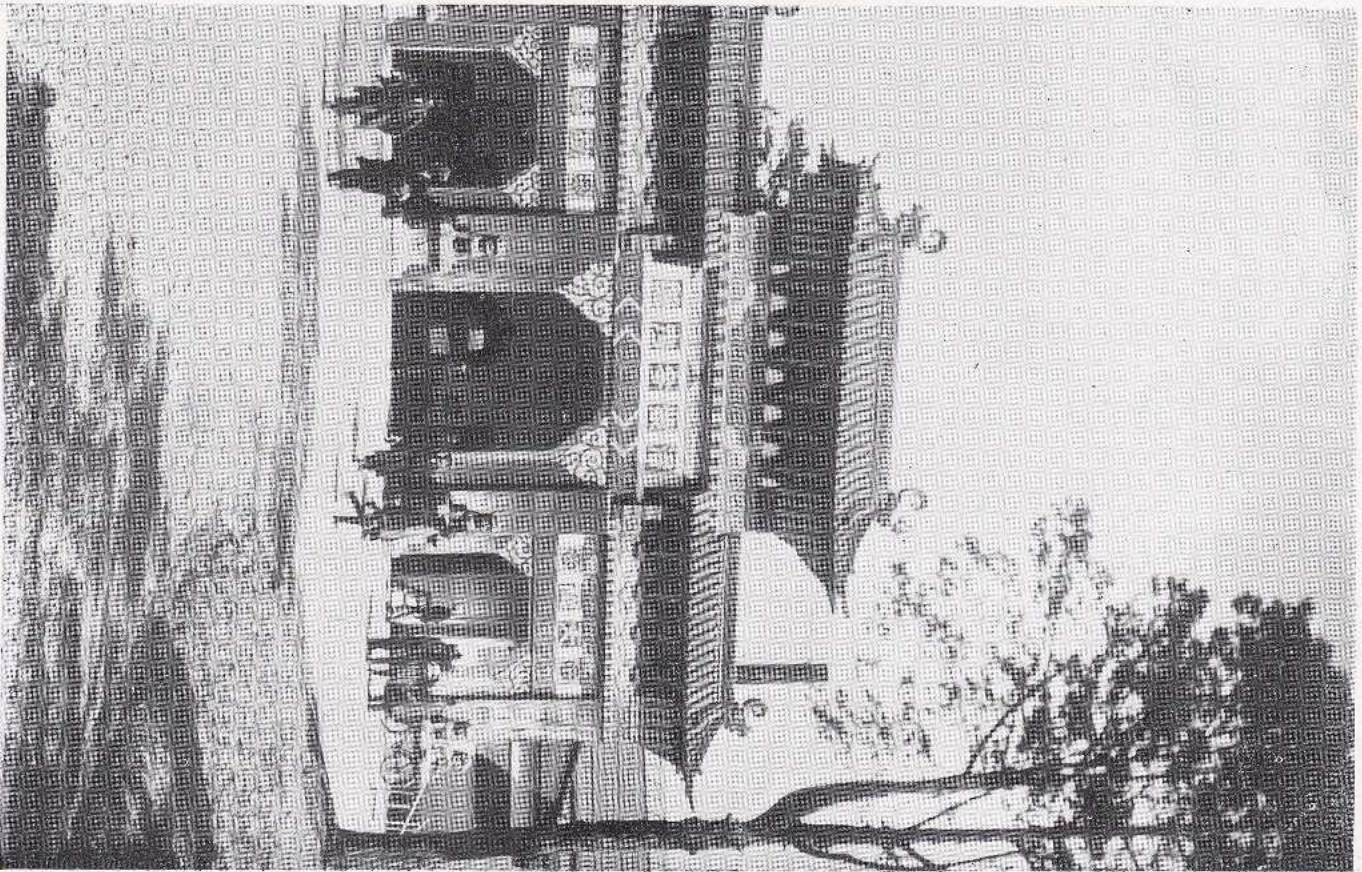
館 設 特 鮮 朝



北海特設館



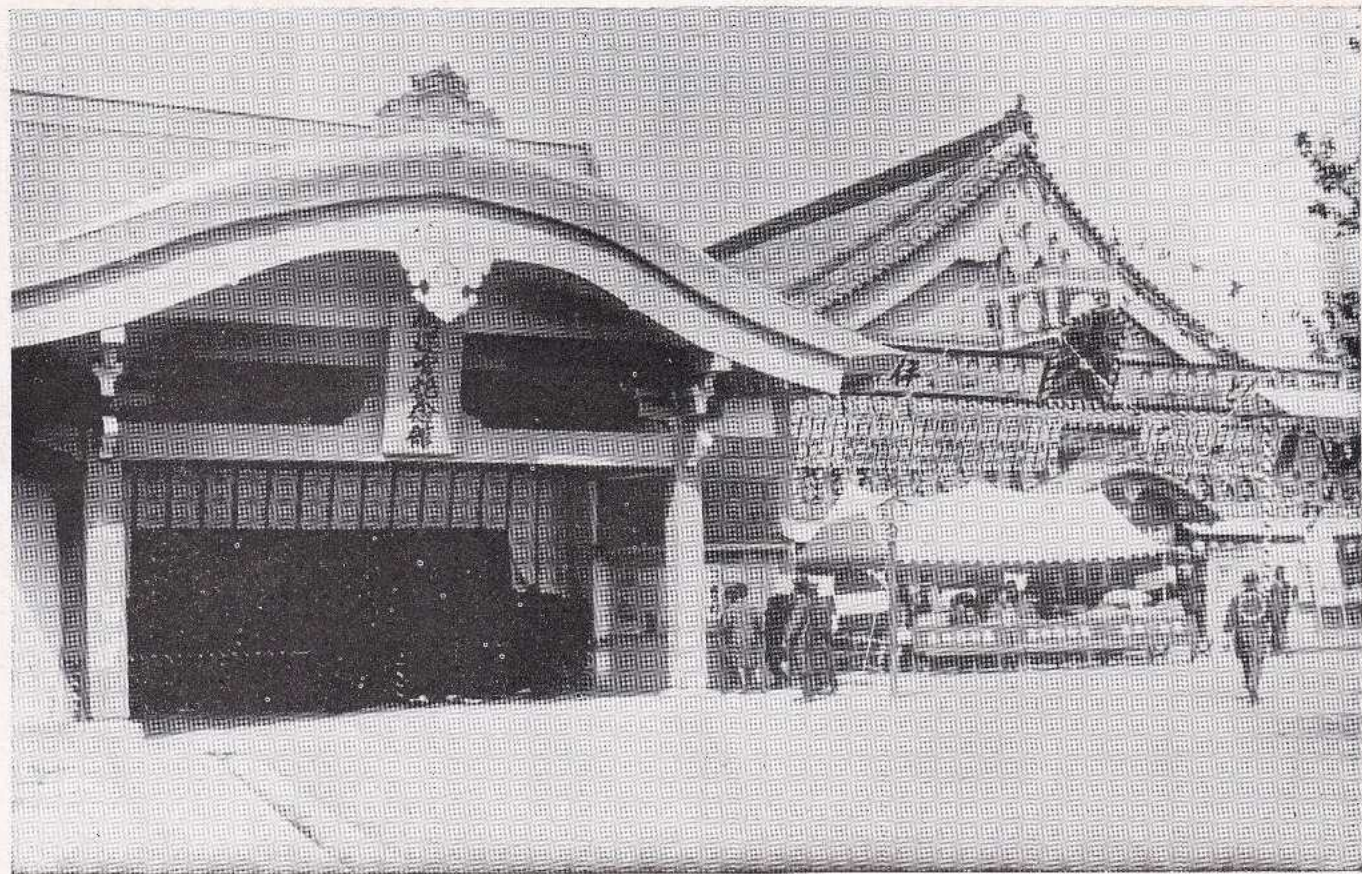
特 太 櫺 館



滿蒙特設館

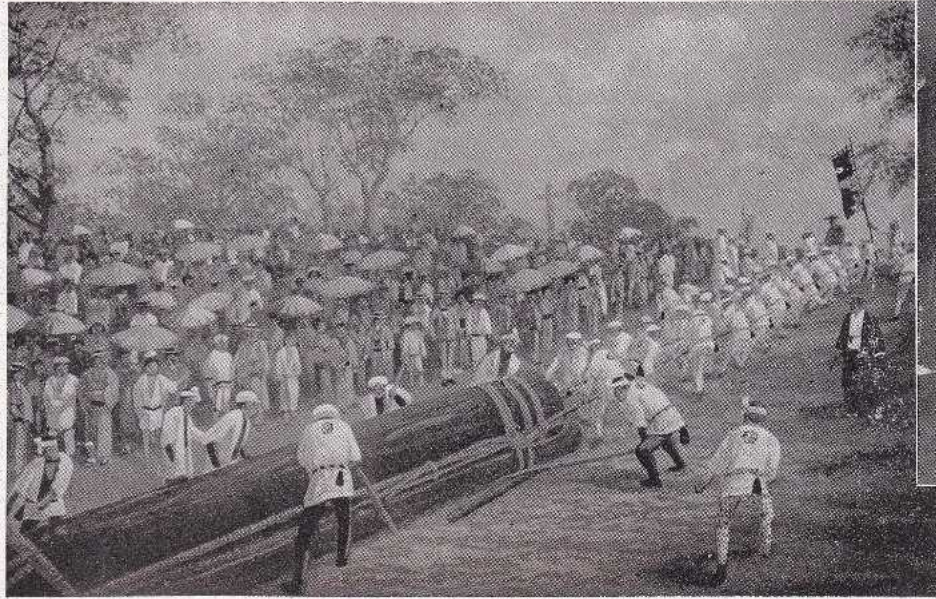


山田驛頭大鳥居迎門



御遷宮記念館正面

圖ノ曳奉材用御宮外内館宮遷御

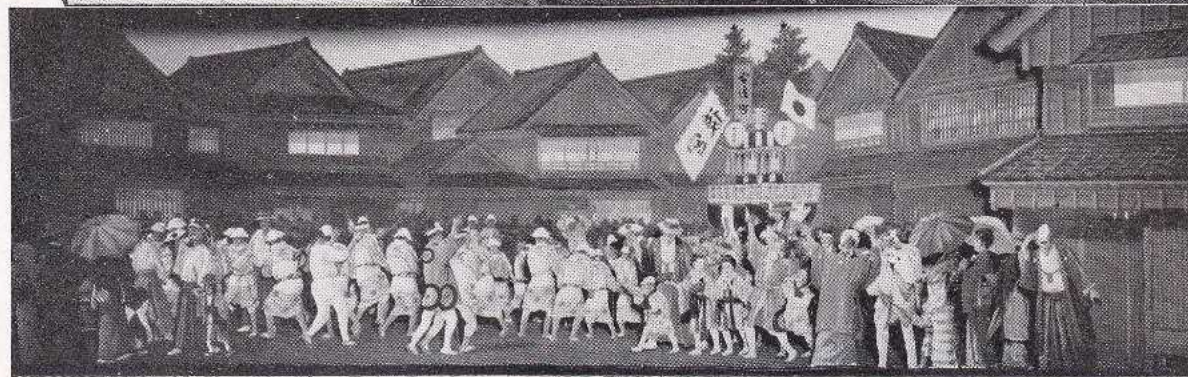


車曳木御内館宮遷御

全
五十鈴川奉曳ノ狀況

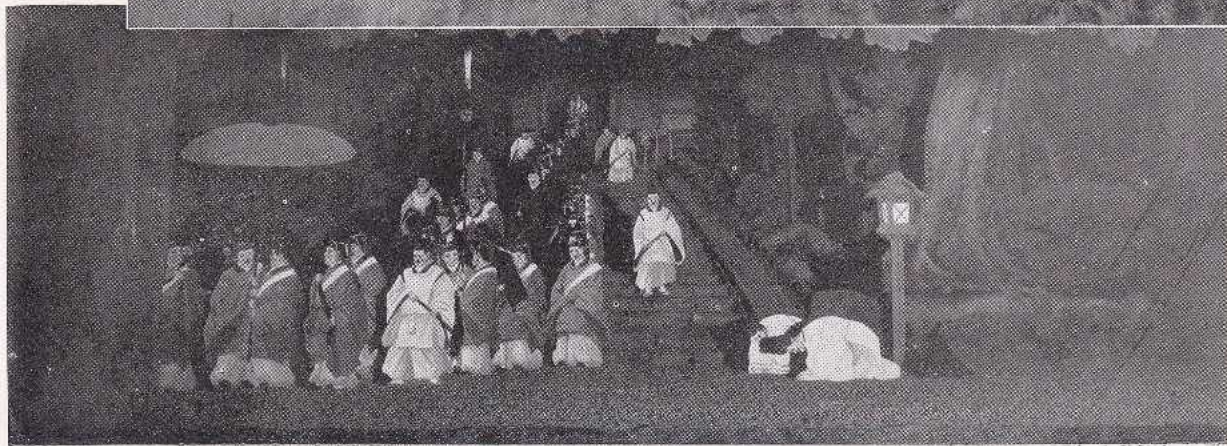


況狀之獻奉石白御



御遷宮内御白石奉獻狀況

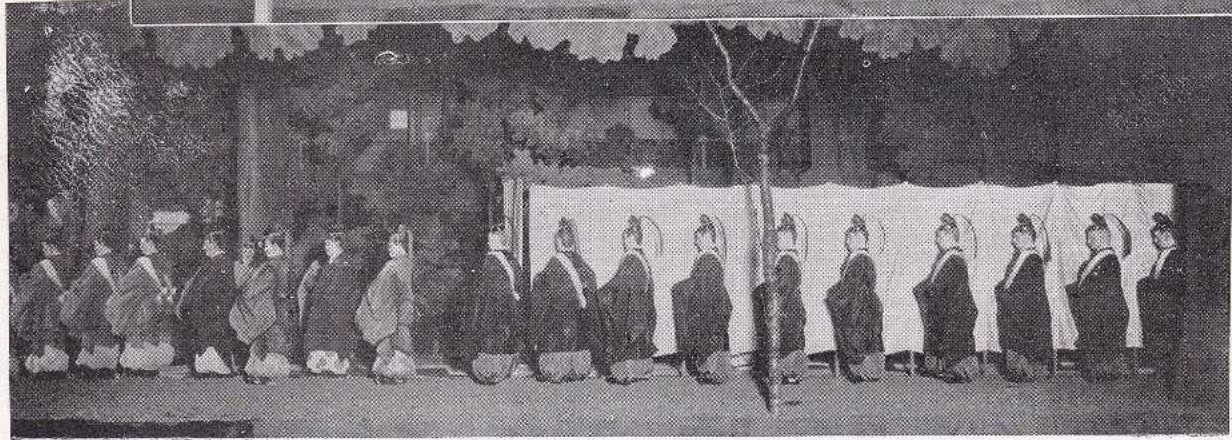
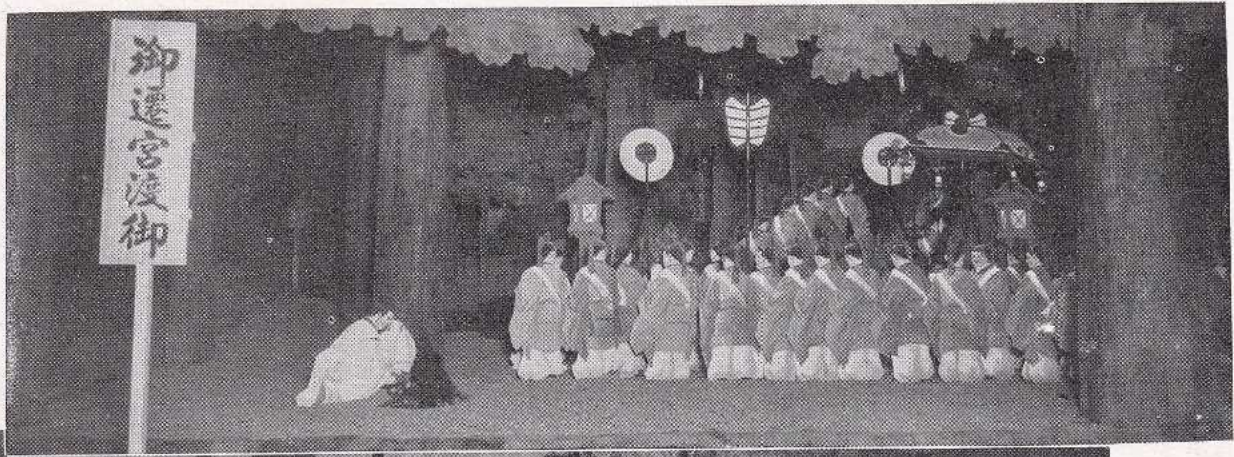
其
三



其
四

御渡宮遷御内館宮遷御

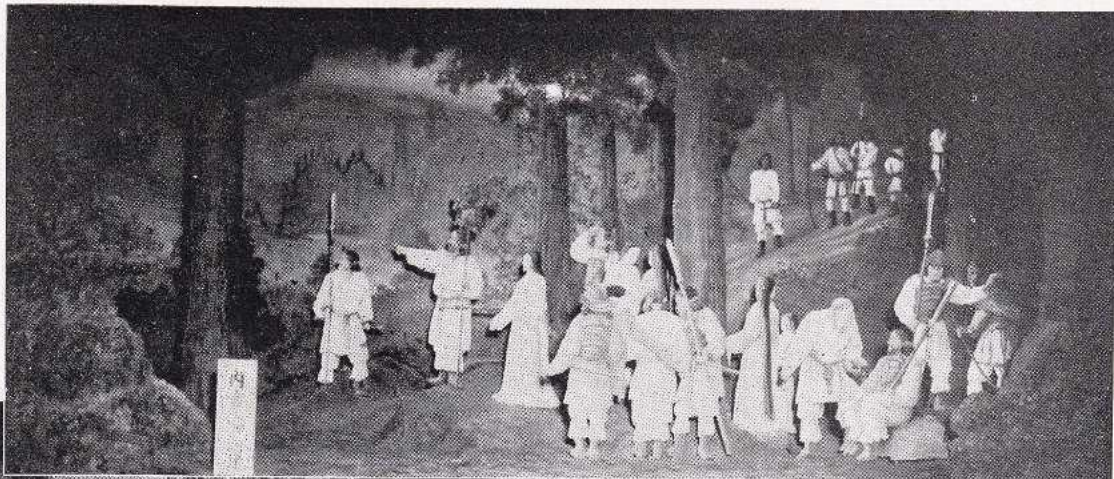
其
一



其
二

(キ續) 御渡宮遷御内館宮遷御

一、伊勢神宮の御創建
 今を遡る事千九百餘年の昔、垂仁天皇の御宇皇女倭姫命が伊勢に大神の由緒ある地をもごめられ太田命の篤導に依り大和笠置邑より此處に御遷座されましたので、此れ今の神宮の御創建であらせられる



二、外宮上空に慶雲顯はる
 神護景雲元年六月十六日外宮上空に慶雲が現はれ又七月十五日にも五色の瑞雲が現はれたので陰陽寮は神宮の御慈しみの表現ご占ひ詔して年號を神護景雲と改められた

遷宮館内御史蹟



三、齋宮群行

伊勢神宮御創建以來歴代の天皇は内親王を伊勢に下して齋宮ごなし・神宮奉齋の御儀を奉仕せしめられ畏くも御崇拜の誠を盡し給ふた
 圖は藤原時代齋宮御下向の状で世に之を齋宮群行といふ



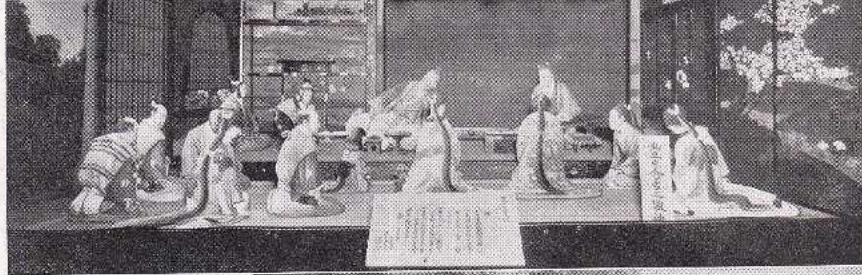
四、北畑親房の出師

南朝の忠臣北畑親房は義良親王を奉じ關東に勤王軍を召されんごて伊勢神宮の御神佑を頼り大湊から舟師を整へ出帆する所である

御遷宮館内御史蹟



六、豊臣秀吉の敬神
 豊臣秀吉檢地の制を設け、
 神宮の御蹟をも檢地を行は
 るごした時に一夜神夢を齎
 り其の非を悟つて之れを中
 止し後年御造營にまで奉仕
 した



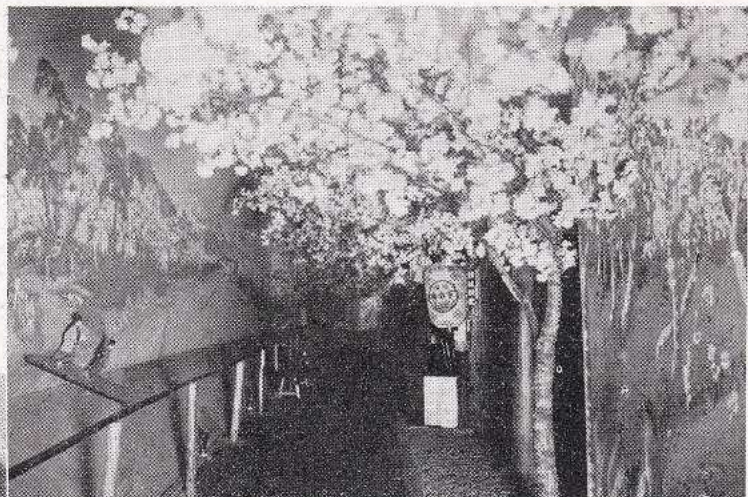
五、慶光院御造營奉仕
 慶光院清福尼は戰國時代争
 亂の時に身を挺して諸國に
 勸進し。宇治橋を架け、後
 に御造營を遂行し尙ほ國司
 且教をして正遷宮に際し參
 拜者の爲めに園内の諸關を
 撤去せしめられた



七、御蔭参り
 模型は今から約百五十年前
 明和のおかげ参り宮川渡馬
 附近の景況である

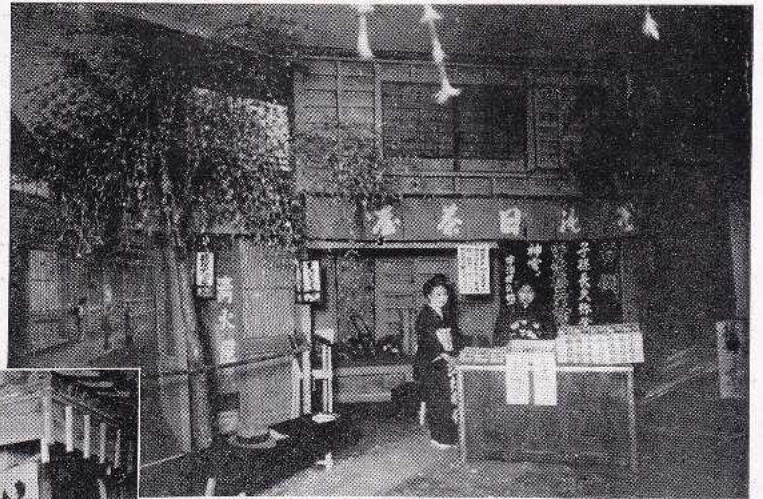
御遷宮内館史蹟

玉お杉お内館物名



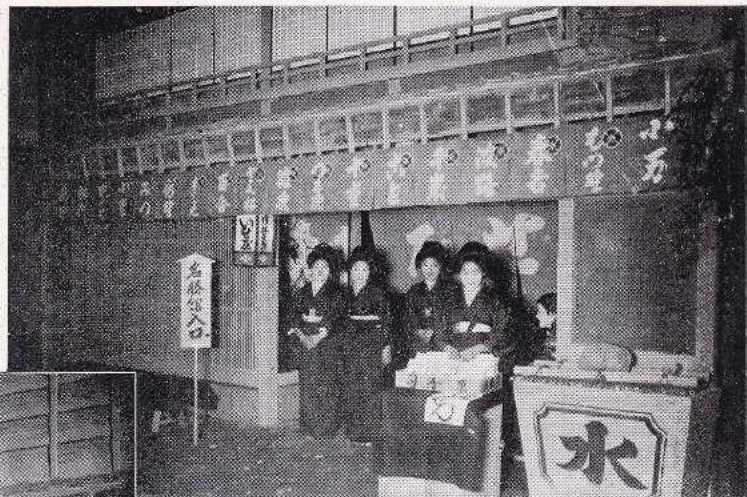
櫻の堤川宮内館物名

んどう六ぶど 内館物名

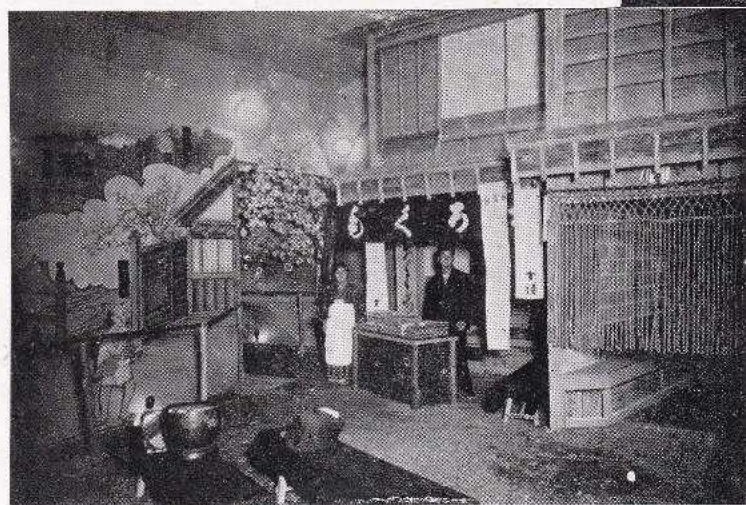


屋茶日其、屋火清 内館物名

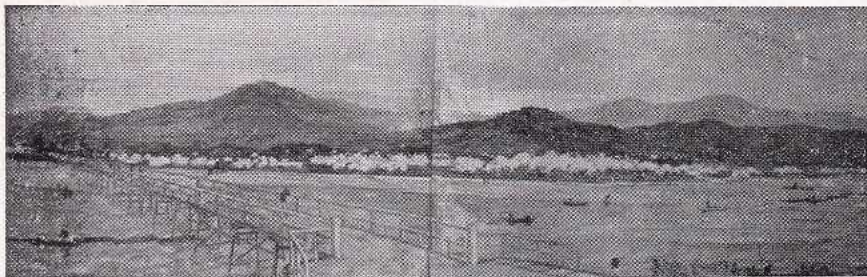
餅くろお 内館物名



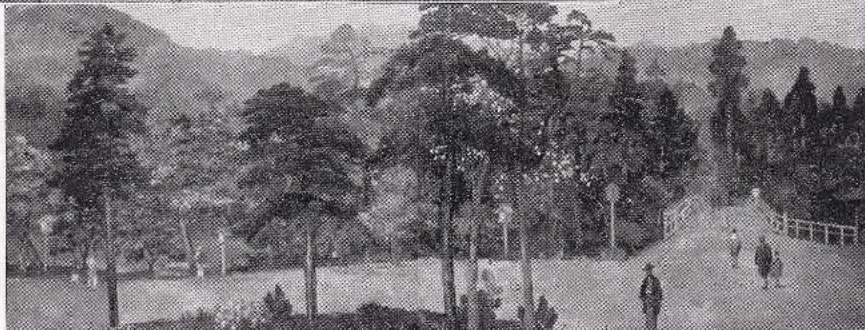
屋茶休お 内館物名



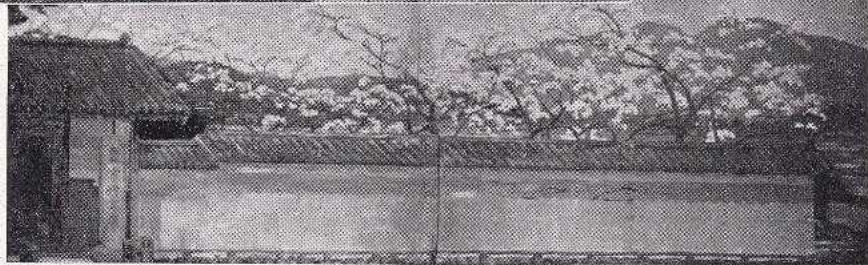
一、宮川橋西詰から、
上流並に櫻花の堤を
眺め、遠く高倉山を
望む。(春の景)

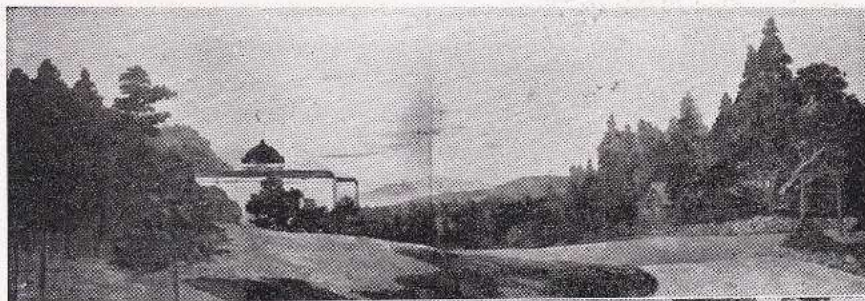


二、外宮前附近から、曲玉池を眺め
遠く高倉山森林を望む。(初夏の
景)

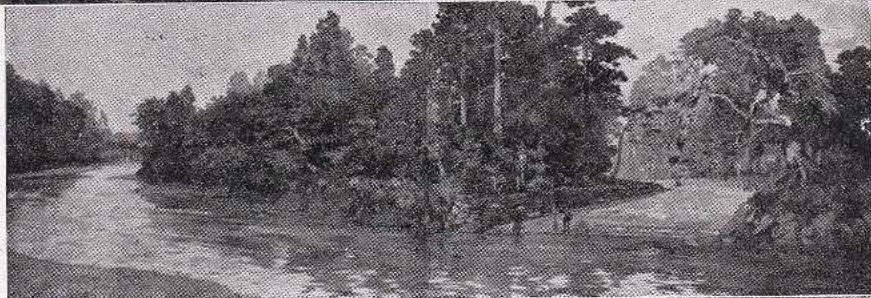


三、宮崎文庫表門から、宮
崎沖を眺め、虎尾山・中
山寺・鼓ヶ岳の遠景を望
む。(春の景)





四、農業館附近から、
倭姫の宮・微古館を
眺め朝熊ヶ岳を望む
(冬の雪景)

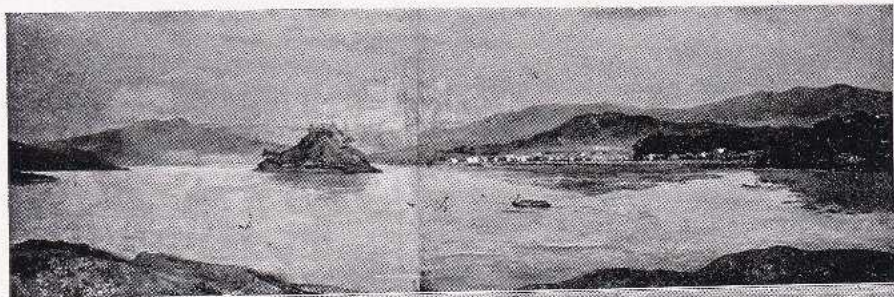


五、法度口から、五十鈴川手洗
場を眺め、下流宇治橋を望む
(秋の景)

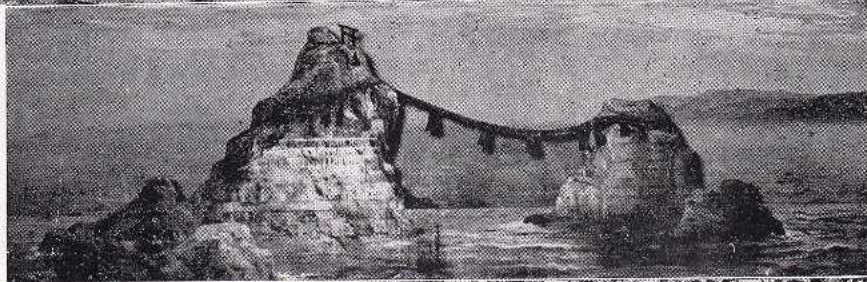


六、朝熊山上太鼓橋附近から
本堂を眺む。(初夏の景)

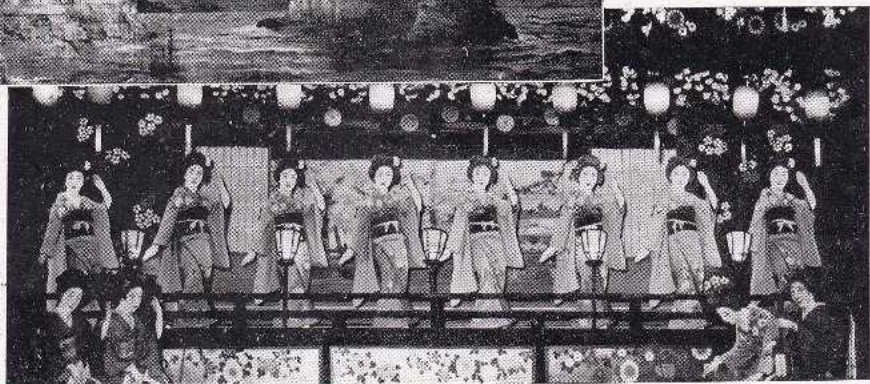
七、烏羽港の夜景



八、二見浦夫婦岩附近。(真夏の景)

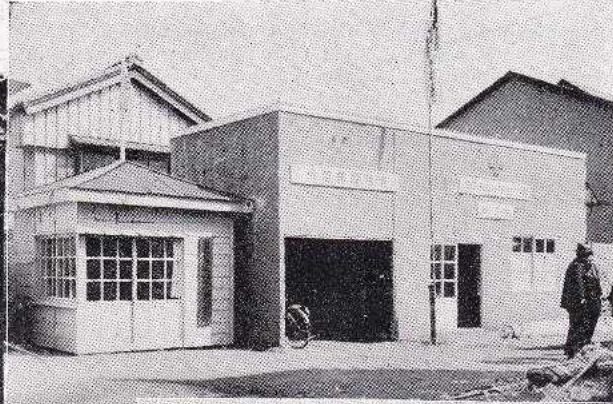


九、伊勢音頭。



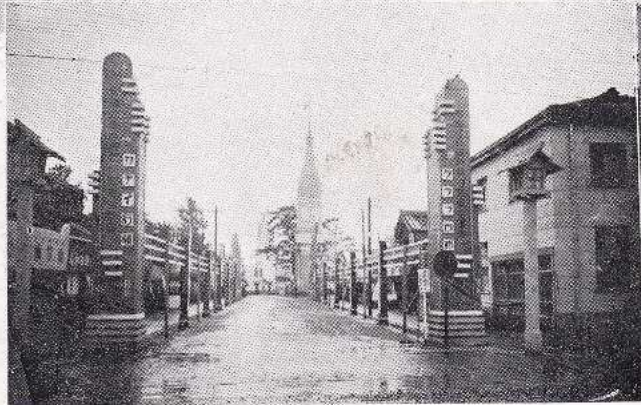
名勝館

郵便局臨時出張所



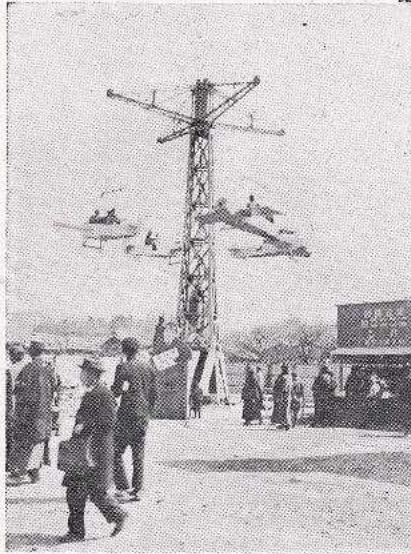
消防詰所

街路裝飾ノ一部



外宮前無料休憩所

山田驛前博覽會案內所



飛行塔



伊勢茶寮



タラ館



宇治橋模型



演藝館正面

(第一回ノ内)

常磐津

青陽壽



「アテ／＼目出度やなア、四海波風静かに
 て枝もならさぬ四方の春
 「君の齡を萬代とをひそふ松の末葉まで今
 一しほの色増して久しかるべき言の葉の
 流れたえせぬ五十鈴川戀と情の一と雲エ
 、くみかわしたる屠蘇の酒
 「エ、酔た／＼罷出たる者は八幡大臣です
 けふ新玉の壽に大盃を引うけ、あそこで
 も七はい、こ、でもぐつと又五盃、七五
 三の續け吞、福神舞を見さいなハ、ハ、
 、、其の次の福神／＼
 「ハア！御前に福神と名され候故、神詣の
 かえりがけ幸と罷出候
 「こやめづらしや福太郎なんしはいつくの
 神へ参りたるぞ
 「イヤ夫れは忘れました
 「是れはしたり、
 「ヲ、それ／＼いの字のついた神の御名で
 御座りました
 「何と云ふいの字のついた神ならば仔豆權
 現、若清水、出雲の神か稻荷の社ム、仔
 勢参宮ではなかつたか、
 「いかにも其の仔勢参宮で御座りました、
 叔道中の面白さ、年越、願参、ぬけ参り
 思ひ／＼のなしみの泊り花をかざりし迎
 ひ駕、取わけ宮居の賑ひをあら／＼語り
 申すべし、
 「實に面白し／＼我等も相手と立上り扇子
 追取り打つれて恵方参りか仔勢参宮どれ
 が主やら下部やら
 さ、氣げんかはほんのりとねに常磐の色
 増して皆いちやふのそめゆかた、晩の泊
 りはどこ泊りそ、あすの契りは待遠し
 「けふ宮川の夕かずらかけてたのみやわが
 ねがひ内外の神の御神樂に
 「早や天の産も明方の人の面も白くと白ゆ
 ふたすき神の庭押分けられぬ水垣や
 「實にありがたき芦原の女神男神の二神建
 て根強き礎の動かぬ御代の拍手を打ち納
 めてぞ祝しけり」



(第一回内)
長 唄

神都歌謠勇吉兆

作詞 井手 薫 雨
作曲 柗屋 喜多六
振付 西川 石 松
鳴物 望月 太 洋 樹
助手 柗屋 喜 鈴
助手 西川 初 音
後見 西川 石 花

「世のために、たてし内外の宮柱、たかき
神路の山はうごかし

「山は動かし水とても、つきせぬためし五
十鈴川、清き心のくもりなき、石も鏡の
名に愛で、正せば襟の影も赤みだれぬ流
御裳に都雅てうつる出立榮、一の鳥居よ
二の鳥居、連れて揃ふて初詣はなれぬ仲
の指約と、深きを頼む御手洗の、いとし
川合の淵澄みて、幾世濁らぬ大庭ゆ、す
、めば八つの石壺や、玉串御門玉がきの
うちそ賢き大御神、國民敬へば神榮う、
神の榮は御國の榮、榮えく／＼て神風や、
玄くしの榮をとりかざし内外の宮の神い
さめ、天の岩戸のおさをぎに習ふてこ、
に仔勢音頭

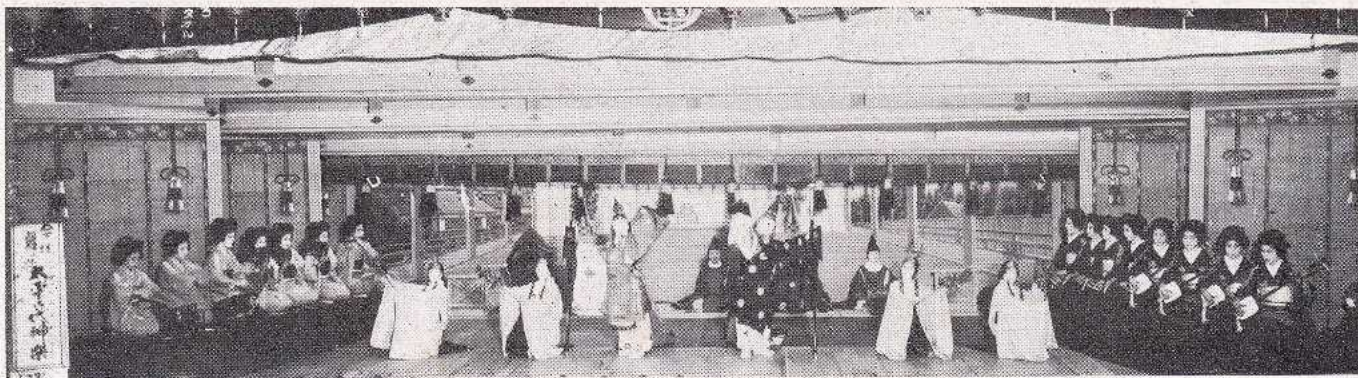
「仔勢は上國內宮外宮、ひかるみたまやよ
そにやないヤアトコセ、ヨイイヤナア

「清き流れの御裳川は神代ながらのみそぎ
どこヤアトコセ、ヨイイヤナア

「サツサ祝ひませう、これのお宮は畏いお
宮四方白本のかたそぎづくり、嬉しき年
の御遷宮お目出度いせの賑ひや、天下泰
平民豊か、國家鎮護の御祈禱に墨がねさ
して采とつた頭工匠が吉兆踊、一つ所望
ぢや合点か、

「天に照る月は十五夜がさかり、我君様は
いつもさかりよの、春に咲く花は猶生が
盛りわが君様はいつも盛りよの

「仔勢ぢや限らぬ日の本の園おしなべて心
から壽き合ふこそ樂しけれ、壽き合ふこ
そ樂しけれ



(第二回ノ内)

今様舞樂

太平御代神樂

「すめらぎの畏き御代の道廣く四方におき
 まる八潮の浪も靜かに照す日の木の影ゆ
 たかなる時とかや天長地久萬里が外も若
 の御稜威のかがやきて榮へ久しくかゝる
 代に任める民こそゆたかなれ國はつきせ
 じつきせじや萬民幸福の時は今、春めく
 本の芽萌へ出する樹の枝葉茂りあひ、み
 てぐらかけてゆふしでの神の御前に立つ
 柱も直なる道を守り給へる大社光り照り
 そふ赤暈の霞をた、へて御手洗を清く結
 びてしめの内我が君が代は萬代と

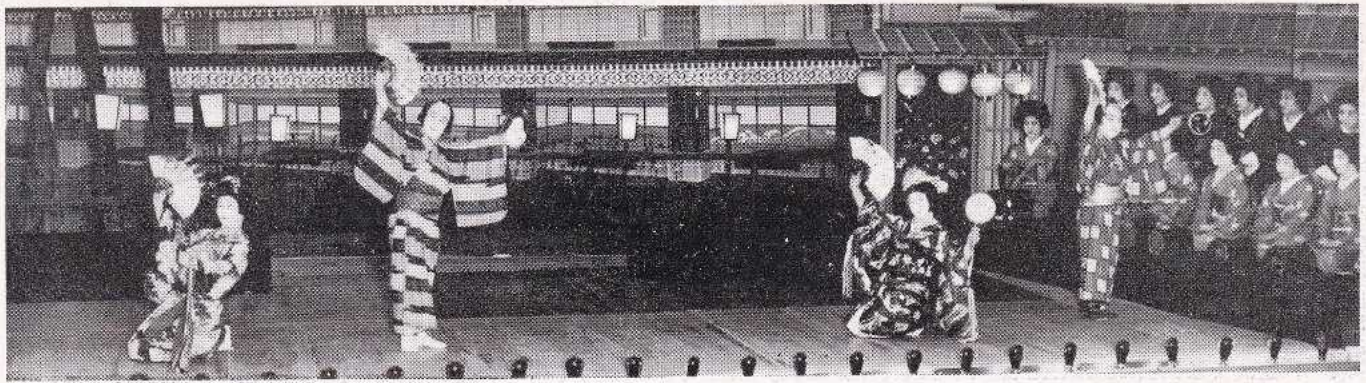
「萬代とうたへやはやせ神樂人

「蝶鳥の羽袖もかほる花の影ふりくるく
 花吹雪友かどあふて舞ふ胡蝶あなたへひ
 らりこなたへひらり、ひらりちらくち
 りくばつと追ひつ追はれつ翼をかわし
 花の梢に舞ふかど見れば左右に遊びてお
 ちこちに比翼の蝶の餘念なく狂ふ姿を面
 白や

「美しき

「春鶯殿の樂の音に花も開きてかんばしく
 さへづる諸鳥の聲々や青海波清穏やかに
 神と君との道すぐに萬歳樂と祝ふなり國
 土豊かに民榮え天にまします神のぬき手
 にとりくくに宮人がはやす舞樂の音もさ
 へて

「あら面白や舞樂かずく、我が君が代は千
 代萬治まる國こそ久しけれ



(第三回ノ内)

長 唄

俄 かしま

さても見事な神いさめ、思ひよせたる合宮
す、め、鈴ふる袖ふるなりもよし、なりも
吉原全盛遊び、うかれうかれてこれわいな
ア合御代は目出度のなん／＼なアえ、これ
わいな合御代は目出度のさんさ若松様よ合
枝も榮えて葉も繁るかしま浦にはなん／＼
なアえ、かしま浦にはたから本船がつんつ
いた波に黄金の花が咲く、

「これは麁の色くらべ、おいらんたちの道
中は、雪のすあしに雪の顔

「ヤレ富士の白雪は朝日で解ける合どけた
らどうしたえ、娘島田はサアねて解ける
合アレイ娘島田はサアねてとける、其の
取りもちほたいこもち、ねるかねれぬか
あわもちの、これはねえ、名だいく／＼合
わしはこのうすが前は手柄合思ふ所をと
んとつんつくべいと、思えど、そなたの
顔見りや、手をつく印と栞このひよしよ
く合これにもほかの里神樂里の遊びぞに
ぎわしき。

新曲長唄

伊勢乃御田植



「春の空吹く神風も長閑にて浪も静かに伊勢の
 海たなびく霞度倉や山田の景色何處より先づ見
 に行かん宮崎の文庫に閑く花だよりいつかは過
 ぎて五月空青葉若葉に浅りあふ木の下蔭に黒木
 門柳に結ぶ麻の芋も浅きにあらぬ神の御心ゆ
 ふしでの恵の露にみのる氏實にありがたき御代
 なれや 神主いかに神子たち毎年とは申せ今日
 は御田の御神事五月の空とは申しながら空晴れ
 ばれと日柄もよし殊更日出度き事にてはなきか
 神主我々も左様存じいづれも奇縁に身を清め
 罷り出ました 神主されば我等は水口を祭りか
 さめうずる間方々も其の用意をささらい 神子
 心得ました 二上 夫れ春のたなおるしは少なく
 とは申せども一粒萬倍たるべしれを當り来る年
 蹄は十月二月日のならば三百六十余ヶ日天と地
 との和合して白銀の花咲き黄金の實なり千所に
 千束萬に萬束よき日を選み水口を祭りかさめて
 聲をあげ 神主 田樂舞を舞ひませい巫女心得ま
 した 五月雨の雲に峯なく薄曇の空にそ降る
 雨やさめ神の御田の苗代水に腫もぬれそろ自か
 ら袖や袂もしつぼりとぬれて浮名も橋の色は變
 らじいつ迄も結んで解けぬ笠の紐神に搭ひをゆ
 う禱かけて嬉しい今日の日は秋のみのりを待つ
 ぞ樂かけ げに有難や千早振る神の恵を受けそ
 へて縁起の式の御事は天地帝の御時に始め給ひ
 し古事を今にかわらず寫し繪姿の狩衣折烏帽子
 神の御前に豊年を祈りてはやす笛去鼓みの秋
 田の時を待ち茶の俵を積み重ね御饌の調理も清
 らかに白酒里酒を供へ申さん 三下 ふし里の稻
 を戴きも、轉りのふくら雀は今日よりくるぞ戴
 け 御田やさん陰あつばれやなく 日出度御
 田の五月二十日を吉日と定めて我君の實生作戴
 け 御田やさん陰苗代の 早苗たばねて左
 右へ投げて歌ふ聲さへ勇ましや戴け 御田や
 さん陰植耕作を仕る 二上 如何に早乙女此の處
 の山々に花の咲いたを見たるか實にきつと見た
 れば黄金の花も咲いたりや 一いかに早乙女懸想
 文がほしいか 懸想文たふならばさぞな嬉し
 らまし 懸想文といふた言の腹立ちしやうぞみか
 あるなら 面憎い男のいふた言の腹立ちしやうぞみか
 らば田をば植うぞ 合 晩におじやるなら二合半
 買ふておしが寝間迄忍ばんせ 合 忍ぶ合圖は小
 窓によりて小石投げるか鼠泣き 合 日出度御代
 には千じやう萬じやう富ふれりふれりやふれり
 富ふれり」

(第四回内)

新調

伊勢音頭

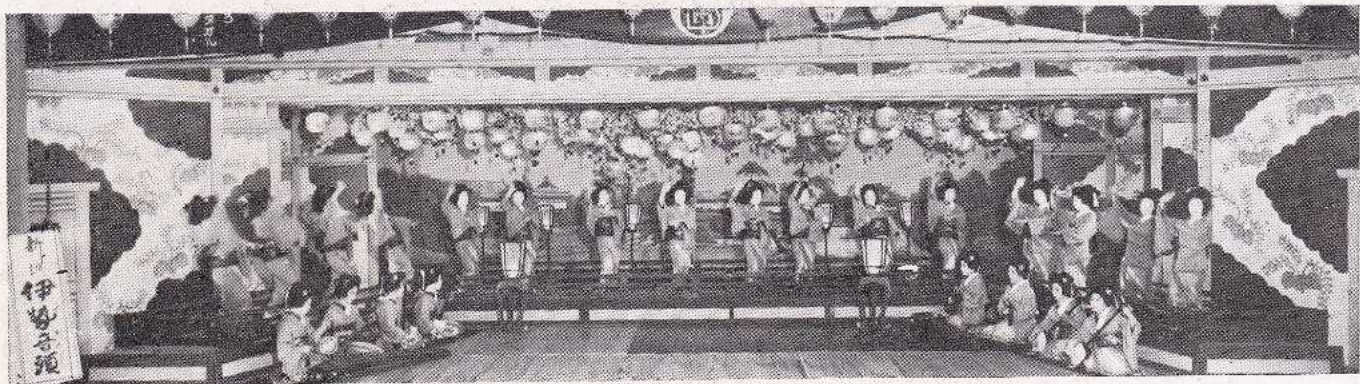
作詞	千里庵竹友
作曲	杵屋松三
振付	志賀山登羅
鳴物	安藤松實
補助	志賀山登光
全	志賀山登志
背景師	高本雪仙
大道具師	本場金太郎
小道具師	本場三之助

「宮柱去しくたてる内外の神をいさめいさむる神樂殿

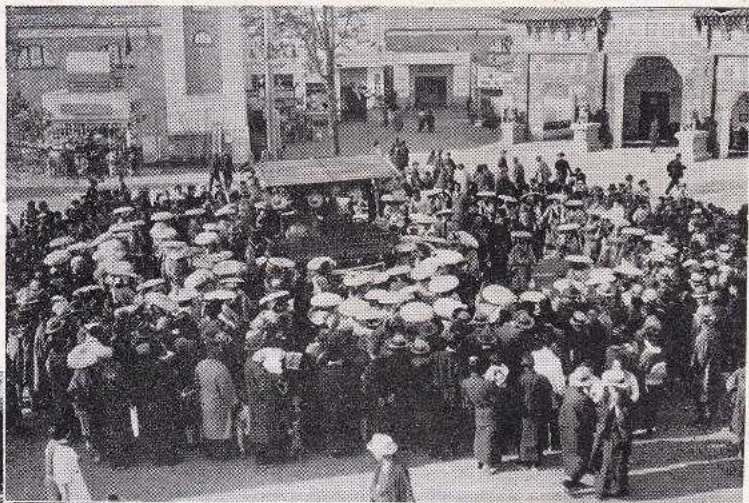
「今も昔もかわりなく紫嵐か名も古布に傳へたる茶汲女がさす引く手。山田音頭のひなふりを見てゆかしやんせ戀しひつつあんよてかんせが柱が玉がひく三味線はじやんじやじやらけた流連にいつかお深いけんしさん裏本戸から忍んでごんせ、あひに外宮の北御門手を引きしめの夫婦若かわるまいぞへかわらじと答へも方なじ鸚鵡石おつな姿をうつして見よや曇りなき身の鏡岩すみて流る、五十鈴川濁らぬ胸をうちあけてふたりが間の山々の尾上のまぢや寝起松葉萬代も色はかわらじ櫻見よなら宮川土手へふくべたづさえうら、かな春暖かき神風につれてちらく花吹雪足もあやつる糸ざくらヨイ

ヨイヤサソレエ

「夏は二見の海水に涙も静かな興玉神社、神にそなへの御鹽田夕なぎかけて涼風や岩のかひより出る朝日、海に金波の美しさ
ヨイヤサソレエ
にぎわしや

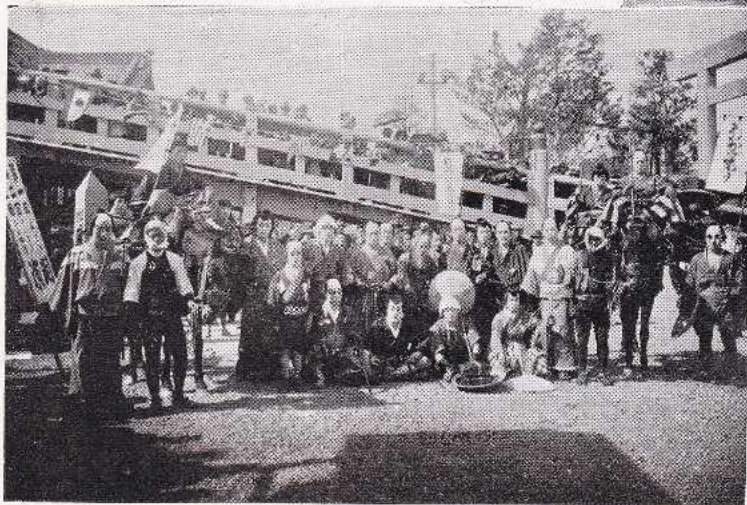


況盛の會大撲相團年青下縣

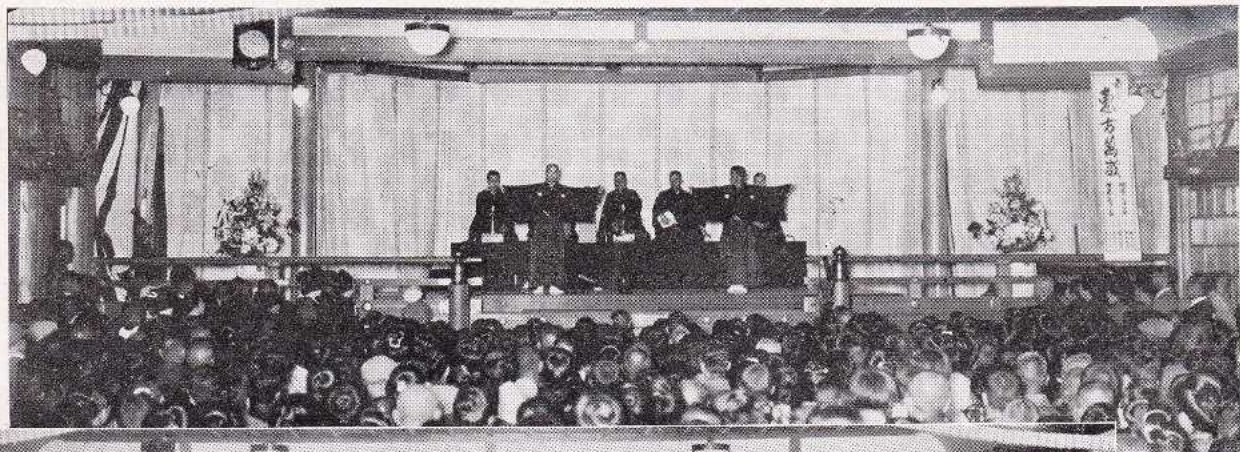


頭音崎河志有町江船

宇治山田青年團有志者かお参り



郷土藝術家志一郡木村豊年踊



阪東三津五郎
常盤津松尾太夫
素踊乗合恵方萬歳



杵屋佐吉氏演奏會の盛況

御遷宮奉祝神都博覽會役員

(次第不同)

役員名	職名	官公職及名譽職名	氏名
總裁		三重縣知事	市村 慶三
副總裁		三重縣內務部長	石川 芳太郎
會長		宇治山田市市長	福地 由廉
副會長		宇治山田市助役	宮崎 一雄
副會長	總務長	宇治山田市會議長	西田 周吉
副會長	庶務部長	宇治山田商工會議所會頭	十文字 重輝
常任理事	庶務部長	宇治山田市會議長	小林 豐太郎
	出品部長	宇治山田商工會議所常議員	北岡 善之助
	工管部長	全	森 三六
	經理部長	宇治山田市會議員	村井 市平
	警備部長	全	豐島 銳郎
	事務囑託	宇治山田市會議員	河村 清兵衛
		宇治山田商工會議所副會頭	村田 仙右衛門
		全	小西 甚吉
		宇治山田市會議員	山本 久治郎
		宇治山田商工會議所常議員	國府 重周
		宇治山田商工會議所議員	杉野 八郎兵衛
		宇治山田市會議員	

全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全

全

尾崎堯明

全

河村政吉

全

竹内正藏

全

福川清水

全

角田久吉

宇治山田商工會議所常議員

松崎藤九郎

宇治山田商工會議所議員

榎本三右衛門

全

中北喜兵衛

全

丹羽増太郎

宇治山田市是調査委員

杉木齋之助

宇治山田市是調査委員
宇治山田商工會議所顧問

小川三左衛門

宇治山田警察署長

上野芳松

三重縣商品陳列所長

小林義夫

宇治山田市收入役

白井策造

宇治山田市主事

大谷滋

全

渡部重男

宇治山田市技師

松木正治

御遷宮奉祝神都博覽會協賛會役員 (次第不同)

役員名	職名	官公職及名譽職名	氏名
會長		宇治山田市會議長	西田 周吉
副會長		宇治山田商工會議所會頭 宇治山田市會議員 宇治山田商工會議所副會頭	河村 清兵衛 村田 仙右衛門
理事長		宇治山田市副議長	十文字 重輝
副理事長		宇治山田市助役	宮崎 一雄
專務理事	總務部長	宇治山田商工會議所議員	北岡 善之助
	會計部長	宇治山田商工會議所常議員	竹内 正藏
	宣傳部長	宇治山田市會議員	榎本 三右衛門
	接待部長	宇治山田商工會議所議員	小西 甚吉
	餘興部長	宇治山田商工會議所議員	杉野 八郎兵衛
		宇治山田商工會議所議員	河村 政吉
		宇治山田商工會議所議員	山本 久治郎
		宇治山田商工會議所議員	松崎 藤九郎
		宇治山田商工會議所議員	井村 長勇
		宇治山田市會議員	井阪 隆七
		宇治山田商工會議所議員	早川 隆藏
		宇治山田市會議員	橋本 佐兵衛
		宇治山田商工會議所議員	西村 平兵衛
		宇治山田商工會議所議員	西村 圓吉
		宇治山田商工會議所議員	丹羽 増太郎
		宇治山田市常磐町惣代	西崎 捨藏
		宇治山田市船江町惣代	東倉 松吉
		宇治山田商工會議所議員	大澤 源太郎
		宇治山田市常磐町惣代	奥川 源吉
		宇治山田市是調査委員	奥田 文吉
		宇治山田商工會議所顧問	大野 茂三郎
		宇治山田商工會議所議員	小川 三左衛門
			小川 長之助

專務理事

宇治山田市會議員

小津光治

全

宇治山田商工會議所常議員

奧井周太郎

全

宇治山田市會議員

片岡善兵衛

全

宇治山田市一之木町惣代

笠井眞次郎

全

宇治山田商工會議所議員

川口伊八

全

宇治山田市今在家町惣代

堤初太郎

全

宇治山田商工會議所議員

中北喜兵衛

全

宇治山田商工會議所顧問

中村一彦

全

宇治山田商工會議所議員

村井源藏

全

宇治山田商工會議所議員

野村平八

全

宇治山田市豐川町惣代

安田兵治郎

全

宇治山田市是調査委員

松葉憲太郎

全

宇治山田商工會議所議員

松田正太郎

全

宇治山田商工會議所常議員

正木眞吉

全

宇治山田市會議員

間宮友次郎

全

宇治山田市八日市場町惣代

福島末義

全

宇治山田商工會議所議員

福田勝吉

全

宇治山田市會議員

兒玉善之丞

全

宇治山田商工會議所常議員

小林豐太郎

全

宇治山田商工會議所議員

北出直七

全

宇治山田商工會議所議員

岸田幸吉

全

宇治山田市曾禰町惣代

三木忠藏

全

宇治山田市浦口町惣代

柴山米吉

全

宇治山田商工會議所議員

守見德太郎

全

宇治山田商工會議所議員

茂谷木地保

全

宇治山田市會議員

森田三六

全

宇治山田市尾上町惣代

森田孫助

全

宇治山田商工會議所議員

世古善兵衛

全

宇治山田市會議員

角田久吉

全

宇治山田商工會議所理事

杉澤伊三郎

全

宇治山田商工會議所理事

小林四五郎

事務長

昭和五年五月五日印刷
昭和五年五月拾日發行

(非賣品)

宇治山田市大字岡本町三百貳番地ノ一
編輯兼發行者 小林四五百

宇治山田市大字岩淵町四百十三番地ノ一
發行所 御遷宮奉祝神都博覽會協賛會

大阪市北區堂島上三丁目一五
印刷者 谷口默次

大阪市北區堂島上三丁目一六
印刷所 谷口印刷所

